

中学校 3年 社会科 学習指導案

「トラブルに遭遇したとき、主体的に解決を図る方法を知る」

日時：平成 年 月 日（ ）

場所：

授業者： 教諭 松山 誠一郎

1 単元名 「わたしたちの暮らしと経済」（東京書籍P106～P115）

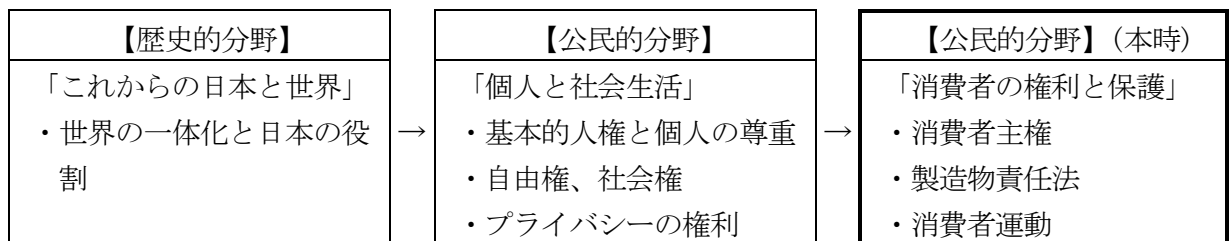
2 単元について

(1) 単元観

わたしたちの生活は、商品を買ったり商品を買ったりする経済活動の中で成り立っている。わたしたちが購入している商品は、手元に届くためにさまざまな人々が関わっている。また、商品を販売するために、売り手はさまざまな工夫を行いながら商品を販売している。こうした経済活動の中で、消費者は自分の意思と判断によって商品を購入するというよりも流行に流され企業の宣伝や広告につられて商品を購入するといったケースも少なくない。また、インターネット等によるICTの普及によって、商品を自分の家で購入できたり、コンビニエンスストア等で簡単にチケット等の商品を購入できたりと大変便利になっている。しかし、その反面これら商品の購入の際に契約上のトラブルも発生しているという現状もある。

本単元では、経済活動の意義や生産・流通・消費といった経済の大まかなしくみを身近な消費生活を通して学習するとともに、消費者としての権利や保護を理解していくことで、一人の消費者としてよりよい経済活動を行っていくことの重要性を身に付けさせることができる単元である。

(2) 系統観



公民的分野における「個人と社会生活」のなかで基本的人権と個人の尊重の学習を生かして取り組ませる。特に単元との関連性が深い自由権、社会権、プライバシーの権利については、わたしたちが生活している経済の中でも十分に保障されるべき人権であることも触れていく必要がある。歴史的分野で既に学習した「世界の一体化」については、これからの日本が国際化となっていく中で、ICTとしての役割も大きく関わってくるのが予想される以上、個人の権利や消費者の権利など、より良い社会生活、経済活動が行われるためにもこれらに関連して学習することには大きな意義がある。

(3) 生徒の実態

本学級は、男子〇〇人、女子〇〇人、計〇〇人の比較的元気のある学級である。授業態度においては、比較的落ち着いて学習できる。男女ともに話し合い活動においても、隔たりなく意見の交換ができる。しかし、教科による得意不得意があり、得意な教科については、積極的に挙手したりするなどの意欲が見られるが、一方で不得意な教科になると、積極性が見られない場合がある。社会科の授業においては、知識・理解はある程度高いものの、課題について考えたり、自分の言葉でまとめたりするなどの活動に対しては苦手意識がある。しかし、興味・関心のある事柄については、反応もよく考えや意見などを意欲的に発言することができる。公民的分野における本単元の「経済」の分野においては、難しいといった意識が強い。

また、「情報モラル」に対する姿勢や理解についての意識調査の結果は下記の通りである。

	チェック内容	
1	・迷惑メールが来ても無視して、返事をしない。	〇〇%
2	・チェーンメールは無視して自分のところでストップさせている。	〇〇%
3	・ネットショッピングの利用やネットゲームのアイテム購入を家の人に内緒でしていない。	〇〇%
4	・チャットや掲示板には悪口や意味のないこと、事実と違うことを書き込まない。	〇〇%
5	・他の人が書いた文章や撮った写真、ビデオなどを、勝手に発信しない	〇〇%
6	・携帯電話を使ってよい場所や時間を守り、勝手に他の人の写真を撮ったりしていない。	〇〇%
7	・家の人と使う時間を決めて時間を守って携帯電話やコンピューターを使っている。	〇〇%
8	・困ったことがあれば先生や家の人に相談するようにしている。	〇〇%

以上の結果から、ある程度の情報モラルに関しての意識は高いと言える。しかし、「携帯電話を使ってよい場所や時間を守り、勝手に他の人の写真を撮ったりしていない」、「家の人と使う時間を決めて時間を守って携帯電話やコンピューターを使っている」、「困ったことがあれば先生や家の人に相談するようにしている」という項目に対しては、数値的に高いように見えるが、他の項目と比較すると割と意識が低いことがわかる。つまり、生徒一人ひとりが個人的に携帯電話やコンピューターを使用する場合の情報に関するモラルの意識は決して高いとは言い難い面がある。よって、トラブルにあったときなどの対処法や対策について、各教科や道徳、総合的な学習の時間などの領域を含め、生徒一人ひとりが自分自身で的確に判断する力や心構えを身に付けさせる必要性は十分にある。

(4) 指導観

指導にあたっては、生徒の社会科の実態に応じた指導を行うことで、本学級が課題としている「資料活用能力」および「思考力及び判断力」を育成しようとする。そこで、次のような点から学習指導に試みる。

- パソコン等の情報機器を活用することで、社会科に関しての興味・関心を喚起させる。
- 班活動を活用して、生徒自らが主体的に活動できる場の確保を行う。また、活動の中で、互いに助け合い・学びあい・教え合う集団づくりや仲間づくりの一助としていく。また、発表の時には、話す人の方を向いて聞くことや発表後の拍手を行うことでお互いに学習しあえるような意識の高揚を図る。
- 生徒の実態に応じて、考えさせるのに耐えうるわかりやすい資料等の活用と提示の工夫を行う。また、まとめを行う際に流れがわかりやすいような板書の工夫を行う。
- 経済の分野に対して難しいという意識があるため、できる限り身近な事例等を活用した教材を扱うとともに、具体的に分かりやすく図や表等を生かして生徒全員の理解を促すことが

できるような配慮を施す。

以上の4点について特に留意しながら指導を行うとともに、生徒一人ひとりが確実に基礎的・基本的事項を習得していくような環境づくりにも配慮していきたい。特に、班学習を学習に取り入れる際に、学習の進め方についてあらかじめ役割を決め、自らで問題解決できるような学習訓練を日常の中で行っておく必要がある。

(5) 情報モラルの視点から

ア 本時は、「モデルカリキュラム」の目標「3. 安全への知恵」、「d4-2: トラブルに遭遇したとき、主体的に解決を図る方法を知る」との関連を重視して展開する。

イ 情報モラルの内容の取り上げ方については、情報機器の使い方やインターネットの操作、危険回避の方法やその際の行動の具体的な練習を行うことに主眼をおくのではなく、情報社会における消費者の権利を保護することやオンラインショッピング等での契約上の個人的な責任などに着目して指導を行う。

ウ 生徒一人ひとりが、社会生活上でこれら情報モラルを実践していけるためにも、各教科や道徳教育や特別活動などの領域との関連性を生かしていくことが重要である。また、正しい情報モラルを身に付けるためにも、学習活動の中に、①生徒一人ひとりに対して自分自身の考えを持たせること、②自分の考えをもとに話し合い活動を行うこと、③表現活動の工夫を行うことに留意する。

エ 情報社会やネットワークの特性の一側面として影の部分を理解した上で、よりよいコミュニケーションや人と人との関係づくりのために、今後も変化を続けていこう情報手段をいかに上手に賢く使っていくか、そのための判断力や心構えを身に付けさせるようにする。

(6) 人権教育の視点

ア 自分の考えや思いを、自信を持って発表できるような支持的風土づくりに努める。

イ 互いに助け合い認め合い励まし合いながら、協同的な学習の場を通して、課題について生徒の共有した理解が得られるような環境づくりに努める。

3 単元の観点別目標

社会的事象への 関心・意欲・態度	○会社や店舗の経営、商品の広告調査や小売店の聞き取りなどの課題学習に意欲的に参加するとともに、現実の経済に対し関心を持ち経済活動における選択について考えようとしている。
社会的な思考・判断	○身近で具体的な事例を通し、経済活動における選択について、消費者・生産者などさまざまな立場から多面的・多角的に考え、公正に判断している。
資料活用の技能・表現	○個人の消費生活や企業の経済活動について、さまざまな情報手段を用いて、自分の考えをまとめたり、わかりやすく発言や発表を行ったりしている。
社会的事象についての 知識・理解	○身近な消費生活を通して、経済活動の意義や生産・流通・消費といった経済の大まかなしくみを理解するとともに、経済活動がわたしたちの生活と密接なかかわりがあることに気づき、その知識を身につけている。

4 指導・評価の計画

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価項目（方法）
1	1	<p>1 ハンバーガーショップの経営者になってみよう (P106～107)</p> <p>◆自分たちの地域に、ハンバーガーショップ店をつくるならというテーマで班ごとに意見をまとめ、発表しあう。</p>	<p>●経済への興味・関心を高めるとともに「選択」という経済の基本的な考え方を身につけるよう心がける。</p>	<p>○よく売れるハンバーガーショップの立地計画を立て、それらの立地計画に基づいた理由を考察することができる。 (レポート用紙・観察)</p>
2	1	<p>2 消費と貯蓄 (P108～109)</p> <p>◆実際の消費活動を通して、消費者が商品やサービスを購入する際、おのずと選択の原理がはたらいっていることに気づく。</p>	<p>●消費者が商品やサービスを購入する際、選択の原理が働いていることに気づかせる。</p> <p>●所得と消費の関係を、家計を通して考えさせるようにする。</p>	<p>○「選択」の基準が条件により様々であることに気づき、合理的な選択について考察することができる。 (ワークシート)</p>
3	1	<p>3 消費者の権利と保護 (p. 110～111)</p> <p>◆悪徳商法やクーリングオフ、PL法の内容を理解する。</p> <p>◆消費者の権利と保護について実際の被害例や対応策を通して考える。</p>	<p>●消費者問題に対してどのように取り組めばよいかを様々な意見から考察できるようにする。</p>	<p>○消費者からの相談受付件数の推移と内容から、被害が増えていることを読み取ることができる。 (ワークシート)</p>
	1 (本 時)	<p>4 オンラインショッピングにおけるトラブル対策について考えよう</p> <p>◆オンラインショッピングで商品を購入する際に、消費者が気をつけておかなければならない点について考える。</p>	<p>●実際にオンラインショッピングで商品を購入した経験が少ない生徒のために、実際の画面を見せることで思考を促させる。</p>	<p>○インターネット上で商品を購入する際に消費者が気をつけることとは何か、について多面的・多角的に考察することができる。 (ワークシート)</p>
4	1	<p>5 流通のしくみ (p. 112～113)</p> <p>◆流通の経路やしくみについて理解する。</p> <p>◆流通に携わる業者の役割や、流通業者が抱えている合理化の課題について考える。</p>	<p>●流通に携わる業者の役割や、流通業者が抱えている合理化の課題について考えさせる。</p>	<p>○宣伝や広告と日常の消費行動との関係、消費者自身の責任などについて多面的・多角的に考察し、企業、消費者の立場から公正に判断している。 (ワークシート)</p>
5	1	<p>6 生産のしくみ (p. 114～115)</p> <p>◆株式会社のしくみを理解するとともに、新聞記事を活用しどの銘柄を買うかについて班ごとに話し合う。</p>	<p>●株式会社のしくみと役割を理解させるために、身近に存在する企業の事例を通して説明する。</p>	<p>○会社を設立、経営していくうえで必要なもの、資金集めの方法、企業の役割と社会的責任について多面的・多角的に考察している。 (レポート用紙)</p>

5 本時の学習 (4/6時間)

(1) 目標

オンラインショッピングで商品を購入する際に、消費者として気をつけておかなければならない点について、自分なりの考えをまとめることができる。

(2) 展開

過程	学習活動と主な発問	生徒の反応	指導上の留意点と評価	備考
導入 10分	<p>1 インターネットを使ったオンラインショッピングの利便性や危険性について知る。</p> <p>T: オンラインショッピングを実際にシミュレーションしてみましょう。</p> <p>T: ではオンラインショッピングの便利な点とはどんな点だと思いますか?</p> <p>T: 便利な反面、オンラインショッピングにおけるトラブルもたくさんあるのです。</p>	<p>S: お店に行かなくても買物ができる点</p> <p>S: 簡単にできる点</p>	<p>◆オンラインショッピングにおけるシミュレーションを行うことで、授業に対しての喚起を促させる。</p> <p>◆実際にオンラインショッピングを経験したことのない生徒にやってみよう。</p> <p>◆利便性については、特に実際に経験のある生徒からの発言を促させる。</p>	<p>シミュレーションソフト</p> <p>TV パソコン</p>
展開 35分	<p>2 オンラインショッピングにおけるトラブルの事例から問題となっている点を考察する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【学習課題】 オンラインショッピングで商品を購入する際に、消費者が気をつけておかなければならない点とは何でしょうか。</p> </div> <p>T: 消費者がオンラインショッピングで安心して商品を購入するにはどんな点に気をつけたらよいと思いますか考えてみましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【おさえるべき3点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所在等を控える ・セキュリティ ・信頼されるサイト </div> <p>T: 個人情報についての相談件数もかなり増えています。</p> <p>3 実際にトラブルに巻き込まれた方の話を聞く。</p> <p>T: 実際にトラブルに巻き込まれた事例についてどのように対応されたのか話を聞いてみましょう。</p>	<p>S: 注文をしても商品が届かなかった点</p> <p>S: クレジットカードのデータを入力した点</p> <p>S: 連絡先をメモしていなかった点</p> <p>S: 販売サイトの販売業者名や住所、電話番号、責任者もしくは担当者名などの連絡先を確認し必ず控える。</p> <p>S: インターネット上では、自分の住所や名前などの個人情報を安易に公開しないようにする。</p>	<p>◆国民生活センターに寄せられてある二つの身近な事例をもとに、その問題点について考えさせる。その際、生徒の思考を促させるためにもペアによる学習を行わせる。</p> <p>◆生徒一人ひとりが授業に参加できるようグループ学習を活用し、生徒全員が自分の意見を持てるように個人思考の場面を設ける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【評価】 インターネット上で商品購入の際、消費者が気をつけることは何か、多面的・多角的に考察することができたか。</p> </div> <p>◆トラブルに巻き込まれた際、具体的にどの様に対応したらよいかG Tの話を聞くことで身近な問題であることを改めて認識させる。</p>	<p>事例1 事例2</p> <p>ワークシート</p> <p>G T</p>
終末 5分	<p>4 本時の学習のまとめを行う。</p> <p>T: 今日学習した内容から、消費者の権利と保護の立場について再度思い出してみましょう。</p>		<p>●消費者の権利と保護の観点から、消費者主権について再度触れておく。</p>	

6 モデルカリキュラムの位置づけ

(モデルカリキュラムを参考に作成)

情報モラル (中目標)	道徳、各教科、特別活動 他
c4-1: 違法な行為とは何かを知り、違法だとわかった行動は絶対に行わない。	社会科「IT社会の到来」 高度経済成長期以降の情報分野で急速な発展を理解しこれからの情報社会におけるあり方を考える。 道徳「ウサギ」誠実な行動 1-(3) 自立の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任を持つ。
a4-1: 情報社会における自分の責任や義務について考え行動する。	社会科「私たちと社会生活」 マナー川柳を作りマナーとルールとの関係、なぜルールが必要なのかを話し合う。
c4-2: 情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知る。	社会科「社会の発展と新しい人権」 知る権利とプライバシーの権利との関連を考える。
b4-2: 著作権などの知的財産権を尊重する。	国語科「広告・宣伝文をつくろう」 著作権に注意してキャッチコピーを考える。
c4-1: 違法な行為とは何かを知り、違法だとわかった行動は絶対に行わない。	総合的な学習の時間 「性教育講話」 インターネット犯罪について学ぶ。 道徳「招集通知」法の理解と遵守 4-(1) 法の意義を正しく理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。
b4-1: 個人の権利(人格権・肖像権など)を尊重する。	社会科「社会の発展と新しい人権」 新しい人権について、立場による考えの違い、高まる個人の責任などにも着目し、人権の問題を公正に判断する。
d4-2: トラブルに遭遇したとき、主体的に解決を図る方法を知る。	社会科「消費者の権利と保護」 消費者問題について考える。 オンラインショッピングで商品を購入する際に、消費者が気をつけておかなければならない点やトラブルの解決法について考える。
c3-3: 契約行為の意味を知り、勝手な判断で行わない。	家庭科 わたしたちの消費と環境 「消費者としての自覚をもとう」 悪質な商法の種類やトラブルについて理解し、契約の意味を知る。
e4-1: 情報の信頼性を吟味できる。	総合的な学習の時間 「体験活動をもとに発表の準備をしよう」 体験をみんなにわかりやすく正しく伝える。
c4-1: 違法な行為とは何かを知り、違法だとわかった行動は絶対に行わない。	技術科 情報とわたしたちの生活 「情報伝達の安全性とマナーを考えよう」 コンピューター犯罪の深刻さを理解する。
d4-1: 安全性の面から、情報社会の特性を理解する。	

